

強くなければ 生きられない 優しくなければ 生きる資格がない

著名なハードボイルド作家レイモンド・チャンドラーが、その作品に登場する冷徹な探偵に語らせた名セリフです。非情な推理小説の世界の話ですが、昨今の銀行経営に携わる者の心の奥に強く響きます。

この10年間、銀行は「強くなければ生きられない」という言葉の通り、疾風怒濤の日々を経験しました。

株価の暴落に始まるバブルの崩壊で生じた不良債権の処理に追われました。さらに、底の知れない地価の下落は、処理しても処理しても不良債権を増殖させたため、最終処理には予想外の長期間を要する結果となりました。

銀行は、金融仲介機能、信用創造機能、資金決済機能など経済活動に不可欠な公共的な役割を担っています。したがって、どのような時期にでも、どのような局面でも銀行はびくともしない頑健な存在でなければなりません。この難しい時期をくぐり抜けて、預金を安心してお預けいただける「信用力」と健全な「資産運用力」こそが、生き抜く銀行の「強さ」の源と改めて肝に銘じました。

さらに、リージョナルバンクには、「信用力」や「資産運用力」などとは別にもっと大切な「地域との共生」という無形の宝物があることも再認識いたしました。

池田銀行は、地域の皆様のお力添えで、この長くて難しい時期を生き抜くことができました。

池田銀行の創業のころは“親切で新しい”です。地域のお客様の暮らしをより便利に安全にサポートする駅のATMや高度技術を駆使したICキャッシュカードなどの先進的サービスを提供しておりますが、さらにサービスの向上に努めたいと思います。



服部 盛隆氏

Moritaka Hattori

池田銀行頭取

リージョナルバンクは、地域に深く根を張るほど地域の経済産業や企業と盛衰を共にする関係にあります。

池田銀行は「地域起こし」に真摯に取り組むことによって、地域の皆様から生きる資格を与えていただけたと思っております。

池田銀行のいわゆる「地域起こし」は、その第一歩として、2000年に全国の銀行で初めてのビジネスマッチングフェアを開催したことに始まります。今年で第7回を数えますが、公的機関、大学の参加も次第に増え、出展企業数は今回で延べ700社を超える見通しです。

京阪神地区に芽生えた新しい事業を発掘する<池銀>ニュービジネス助成金は3年で6回、そして大学・公設研究機関の技術・知見を活用して新製品・新事業を早期に立ち上げる<池銀>コンソーシアム研究開発助成金は2年で2回の公募を行って、合わせて累計500件を超える応募がありました。

両助成金の受賞、採択案件は通算で87件に上りますが、日本一、世界一クラスの高レベルのものも多数含まれており、今更ながら関西の産学官の底力に驚かされています。さらに嬉しいことには、こうした企業で雇用が着実に拡大しているのです。関西の明るい将来がほのかに見えてきたように思います。

銀行の重要な役割の一つは資金仲介ですが、池田銀行は単なる仲介者を超えて、資金と情報と技術から新しい価値を生み出すコーディネーターとして、引き続き地域振興の一翼を担う「優しい」銀行をめざしてまいります。

談